

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　名	東成区
学 校 名	大阪市立東中本小学校
学校長名	前田　耕一

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日（木）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・東中本小学校では、第6学年 77名

平成31年度(令和元年度)「全国学力・学習状況調査」結果の概要

平均正答率は、大阪市も全国においても、国語・算数とも下回っている。国語では、文章を読んで、それをまとめて書くことが苦手である。また、算数では、基礎基本の部分が弱く、問題を解くうえで、算数のルールが理解できていない。平均無回答率は、全国・大阪市平均よりも大きく上回っており、児童の解答への姿勢が、大きな課題として見られる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕アンケートでもわかるように本を読む習慣は、増加しているが、読んで文にまとめて書く力はついていない。習熟度別少人数の授業を通して、一人一人の習熟の程度にあった個別指導を、さらに継続して進めていくことが重要である。

〔算数〕基礎・基本の問題を何度も繰り返し、問題にあった方法ややり方を正確に、素早く出来るように練習をしなければならない。習熟度別少人数授業を充実させて、個別指導に重点をおき、算数の問題を順序立て、論理的な思考のもと、問題解決できるように、個別指導の充実をしなくてはならない。

質問紙調査より

早寝早起きの習慣が少しずつ身についてきて、毎日規則正しい生活を送っている。また学校のきまりを守り、難しいことでも、失敗を恐れないで頑張ろうとしている。しかし、「家で自分で計画を立てて勉強をしていますか」の項目では、当てはまるが、23%と低いことが気がかりであるが、「ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある」の項目で、当てはまるが、79%となっていることは高評価に値する。また「自分にはよいところがあると思いますか」の項目で、52%の児童が当てはまると思っているが、この児童たちだけでなく、多くの児童のがんばりを認め、伸ばしていくけるように、言葉がけや計画のサポートをしていけば、自尊感情も高まり、自立した行動ができると考える。

今後の取組(アクションプラン)

全国学力学習状況調査の結果を受けて、課題として明らかになったことは、文章や資料を読み取ったものを、要約して分析する学習については、授業内外での継続した取り組みや訓練が必要である。また習得しておくべき基礎基本的な知識・技能については、繰り返しによる反復練習が必要である。習熟度別少人数の授業だけで、補えるものではなく、日常の授業でも、要約して分析する力や基礎基本的な知識・技能の習得の課題意識を持って、学校全体で共有して、各教科で文章を読んで理解したことを基に、自分の考えを深める学習を進める。また計算問題においては、正確に基本的な問題が解けるように、今後も繰り返しの練習を実践していくたい。